

仮面ライダームーヴ

マンティスネオ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

軍服の姫君「アルタイル」によって現界された被造物とそれを生み出した創造主^{クリエイター}、日本政府と自衛隊、一人の少年の活躍によって、彼女の悲願『大崩潰』を阻止し、世界が救われた……。はずだった。

この物語は、『Re:CREATORS』のその後（2年後）の世界が舞台。

主人公は、アニメと漫画、ゲームが大好きな大学生の青年で、後に仮面ライダーになる男、寺✕裕也が、異次元人と、完結作品の被造物達が集まって結成された組織「ANIMEメント」のメンバーとなり、異次元の怪物「イレギュラー」と戦い、人々と被造物達を守り、再び始まる「大崩壊」を阻止せよ！

「さあ、新たな物語ストーリーの始まりだ!!

目次

	仮面ライダー&怪人&用語	1
	プロローグ	5
	第1話 物語の始まり	12
	第2話 Starts moving	17
	story (物語が動きだす)	23
	第3話 変身!!	37
	第4話 Combat start (戦闘開始)	50
	第5話 ANIMATION (アニメント)	54
	第6話 被造物 (キャラクター)	

仮面ライダー&怪人&用語

『仮面ライダー&怪人』

『仮面ライダームーヴ』

パンチ力6トン、キック力11t、必殺パンチ24t、必殺キック30t、ジャンプ力35m、走力100mを5・3秒

本作の主人公がディスクドライバーとチェンジディスク（C・D）で変身して戦う戦士で、全身の特殊強化スーツには「アンチホロプシコン・プロテクター」を身に纏っている。

元々は、「ANIMENT（アニメント）」という組織のライダーが製作した「森羅万象殺し（ホロプシコン・スレイヤー）」の一種で、最初に作られた原型（アーキタイプ）である。

アクション、ロボット、ファンタジー、サスペンス、スポーツ、ドラマタイプの6種類のムーヴディスクがあり、様々な形態になることができる。

他にも、様々な能力を引き出す「スキルディスク」というアイテムを持っている。

『イレギュラー』

軍服の姫君「アルマイル」の能力「森羅万象（ホロプシコン）」の残留エネルギーと、「2次元世界（または虚構世界）」に繋がる空間「2.5次元の狭間」の残留エネルギーが混ざり合って生まれた異形の怪物。

「2.5次元の狭間」に生息していて、全身に特殊な装甲を纏っており、並の攻撃は一切効かない。

体内の核（コア）から発している「森羅万象の霊気（ホロプシコン・オーラ）」は、その霊気（オーラ）を纏った攻撃で、相手を青いドットのポリゴンに転換し、自らの肉体に吸収して強くなるが、被造物には効果がない代わりに、被造物の能力、武器などの攻撃を無効化したり、現実世界を自由自在に転移する能力を持つ。（だが、現実世界での活動時間は30分で、時間が過ぎると消滅してしまう。）

現実世界の人間を獲物の対象にしており、現実世界に来ては、現実世界の人間を捕らえ、吸収している。度々起きている行方不明事件も、彼らの仕業である。現界した被造物も襲うことがある。

様々なタイプが居て、アクションタイプ、ロボットタイプ、ファンタジータイプ、サスペンスタイプ、スポーツタイプ、ドラマタイプの6種類がいる。

『用語』

『2. 5次元の狭間』

現実世界と虚構世界に繋がっていて、アルタイルが現実世界と虚構世界を衝突させたことで出来た異空間。

全てが青いドットのポリゴンで出来ていて、大、中、小の青いポリゴンが空中に浮遊している。

様々なイレギュラーが生息している。

『リアリティ・ゲート』

虚構世界にだけ発生する現実世界の入り口。

それに触れた被造物は、現実世界に召喚されてしまう。イレギュラーはそれに反応し、召喚された被造物を探し出し、襲い始める。

『ANIMATION (アニメント)』

現実された被造物の保護か殲滅、被造物達の関連した物の隠蔽、イレギュラーの殲滅を目的として結成された組織。

メンバー達は、完結された大人気作品の被造物(キャラクター)達で、自分達の世界

が造られたことも知っている。

『森羅万象殺し（ホロプシコン・スレイヤー）』

「ANIMEMENT（アニメント）」という組織が、イレギュラーに対抗するために造られた兵器。

「反森羅万象の結晶石（アンチホロプシコン・クリスタル）」を材料にしている。

様々な形状をしており、選ばれた者しか使えない適合タイプと、機能は劣るが誰でも使える汎用タイプの2種類がある。

『スキルディスク』

仮面ライダームーヴが使用するアイテムで、様々な「種類（タイプ）」のイレギュラーを倒すと、「コア・ディスク」という核だけが残り、「ANIMEMENT（アニメント）」のリーダーが改造し、出来上がる。左腕に装着されている「ムーヴ・Dスキャナー」に挿入するとその能力を利用、拡張することが可能。

プロローグ

ある疑惑をとある場所で言及された事がきつかけとなり……最終的には自らの手で現実世界とのつながりを断つ道を選んだ少女「シマザキセツナ」。

その影響により、「シマザキセツナ」が『悠久大戦メガロスファイア』の登場人物・シロツメクサを元にして作りだしたキャラクター「軍服の姫君 アルタイル」が現実世界に出現した。

アルタイルは、自身の創造主を否定した世界を滅ぼすため、現実世界と物語世界を衝突させ、様々な物語世界の被造物達キャラクターを現実世界に召喚し、その被造物達を現実世界に干渉させ続けることによって、現実世界と物語世界を滅ぼす「大崩潰」を起こそうとした。

だが、シマザキセツナの友人である少年「水篠颯太」と、様々な物語世界から現界した被造物達キャラクター、その被造物と物語世界を生み出した創造主クリエイター、日本政府と自衛隊が、アルタイルの悲願「大崩潰」を阻止するために協力し、横浜国際総合競技場（日産スタジアム）の会場で開催されたイベント『エリミネーション・チャンバー・フェス』のオリジナルアニメ『ボーダーワールド・コロッセオ』で、アルタイルが敗北する様子を観客達に承認させ倒すという作戦をたて、決行した。

アルタイルに騙されて協力する被造物達をこちら側に寝返させ、アルタイルを倒そうとするが、それすらも庄倒されて、被造物二人が倒されてしまった。

そして、隠し玉である「シリウス」さえも、アルタイルに吸収されてしまい、絶対絶命に陥るが、最後の手段に出た。それは、セツナの現界だった。

セツナとアルタイルはそれぞれ対話をし、最終的に彼女のための世界を創るべく、ホロフシコン森羅万象でセツナとともに別世界へ旅立っていった。

クリエイター残った被造物達は現実世界を満喫し、それぞれの物語世界へ帰っていった。創造主達もそれぞれの仕事に戻り、被造物が登場する物語を描いていった。

そして颯太も、いつもの日常に戻り、高校に通いながら、イラストを描いていった。こうして、世界は救われた。

……はずだった。

あの出来事から2年後、誰もが予想しなかった事態が起きた。

それは……

――代々木公園――

東京の真夜中の代々木公園で、2人の男性がカメラとビデオカメラを持って、あるものを探しながら歩いていた。

「なあ、ここに本当に出てくるのか？」

「ああ、間違いねえ、確かだ！」

男性2人が探しているのは、最近ニュースになっている、この公園に出没する、右腕がチェーンソーになっており、左手には剣状のチェーンソーを持った謎の都市伝説怪人『チェーンソー男』をカメラで写真とビデオカメラで撮影して、ブログや動画サイトにアップし、自分達は人気になろうとしていた。

しかし、『チェーンソー男』の手がかりは見つからず、3時間も公園で彷徨っていた。

「もう帰ろうぜ、どうせいないんだよ、俺眠くなってきた」

「馬鹿！何言ってるんだよ！絶対にいるは……ん？」

「おい、どうした？」

「なあ、後ろに何か聞こえねえか？」

「ん……あ、聞こえた、何だこの異様な音」

男性二人に聞こえたのは、まるで尖った金属を引きずる異様な音だった

「ん……お、おい、あ、あれって」

「え……あ」

男性の一人が異様な音をする後ろ方向をよーく見てみると、もう一人も釣られてよく見ると、左手に持つ剣状のチェンソーを引きずりながら歩く異形の姿をした奴がいた。

「う……嘘だろ、本当にいたのかよ『チェンソー男』が!!」

「おい！早く道端の木々に隠れろ!!」

男性二人は後ろに歩く奴が『チェンソー男』だと確信し、慌てて道端の木々に隠れた。

「スゲエエエ……本物を間近で見るとなんて初めてだ！」

「よし！俺がカメラで写真を撮るから、お前はビデオカメラで撮影するんだ!!」

「解った!!」

一人がカメラ、もう一人はビデオカメラで、男性二人が隠れてる木々を間近で歩く『チェーンソー男』を撮影した。

しかし、剣状のチェーンソーを引きずった跡をよく見ると、そこから青いドットのポリゴンのような小さな物体が出てきていた。

『チェーンソー男』は、男性二人が隠れた木々から遠く離れていくと、全身に青いノイズのようなものが発生し、『チェーンソー男』はそのまま消えた。

「や、やった……」

「俺達、撮影に成功したああああああ!!」

男性二人は『チェーンソー男』の撮影に成功し、興奮していた。

「よっしやああああああ!! それじゃ、帰りにコンビニで何か買って、宴に使用せええええ!!」

「おお! そうだ……な!!」

「ん、おい、どうし……え?」

後ろの男性の声を聞いて後ろを振り向いてみると、そこには……。

……消えたハズの『チェーンソー男』が、男性の胸を左手の剣状のチェーンソーで貫いていた。

「ぎ……ぎやああああああああああああああああ!!」

友人である男性の一人が『チェーンソー男』に胸を貫かれた姿を見て、男性は驚いて腰を抜けて倒れてしまった。

『チェーンソー男』は男性の胸を貫いた剣状のチェーンソーを引き抜くと、胸を貫かれた男性は青いドットのポリゴンのような小さな物体になり、『チェーンソー男』の体に吸い込まれていった。

「な……あ、あ……」

残った男性は腰を抜かして、動けなくなっていた。

『チェーンソー男』はその男性に近づき、右腕のチェーンソーを振りかざし、そして……
 「ぎやああああああああああああああああ!!」

男性の体を縦から真つ二つにした。

縦から真つ二つにされた男性はさっきの男性と同じように青いドットのポリゴンのような小さな物体になり、『チェーンソー男』の体に吸い込まれていった。

「グオオオオオオオオン!!」

男性を吸い込んだ『チェーンソー男』は大きな叫び声をだすと、さっきと同じように体から青いノイズが発生し、『チェーンソー男』は消えていった。

これが、誰もが予想しなかった事態である。

そしてここから、物語の始まりでもあった。

第1話 物語の始まり

僕が、生まれて初めて夢中にさせたもの……それは、アニメ、ゲーム、漫画などの様々な作品物語だった。

物語は、現実では起きないことを起こしてくれる、僕にとっては最高の存在だった。僕がまだ幼稚園生ぐらいいのころ、朝やつてるテレビアニメを早く起きて視聴したりしていた。

小、中学生の頃は、図書館のアニメ、映画のDVD、漫画などを借りて観たり、家のお手伝いをして、親からお小遣いを貰い、ゲームショップや本屋、玩具屋に行つて、好きなものを買って漁ったり、映画を観たりしていた。

他にも、アニメや漫画の世界に行こうと、友達と一緒に色々な事をやったが、何も起きなかったので、がっかりした。

だが、高校2年生の時、朝の生番組で、不可思議なニュースが流れた。

それは、代々木公園で起きた「謎の爆発事故」で、ネットでは、「爆発事故周辺にコスプレイヤーを見た」とか、「空を飛ぶ不審人物」とか写真や目撃談で大騒ぎしていた。

僕はそのことを友達に話そうとしたが、馬鹿にされたり、信用してくれないと思った

ので止めた。

しばらくして、僕はとんでもない情報を耳にした。

横浜国際総合競技場（日産スタジアム）で、経済産業省が後援する漫画、小説、ゲーム、アニメの合同イベント『エリミネーション・チャンバー・フェス』が開くという情報だった。

このイベントに参加する作品は、『精霊機想曲フォーゲルシュバリエ』、『追憶のアヴァルケン』、『緋色のアリステリア』、『閉鎖区 underground ninghitō』、『無限神機モノマギア』、『夜窓鬼録』、『code・Babylon』、『ほしぞら☆ミルキーウェイ』の8作品で、この中で特に一番好きだったのは、『精霊機想曲フォーゲルシュバリエ』と『無限神機モノマギア』というロボットアニメだった。

しかも最後にはオリジナルアニメ『ボーダーワールド・コロッセオ』とうクロスオーバーアニメで、動画サイトの人気のキャラクター「アルティル」を倒す物語だった。

僕はこのイベントに行く準備をして、会場へ向かった。そして一番楽しみにしていた、『ボーダーワールド・コロッセオ』が始まって、序盤はとてつもない迫力であった。

だが、物語の中盤で、アルティルの能力『森羅万象』^{ホロフシコン}でキャラクター達を圧倒し、『緋色のアリステリア』の主人公「アリスティア・フェブラリイ」がアルティルに立ち向かっ

たが、やられてしまった。

しかも、アルタイル側についていた「精霊機想曲フォーゲルシュバリエ」の主人公「カロン・セイガ」を同じ作品のヒロイン「セレジア・ユピテリア」が道連れにして自爆してしまった。

「セレジア・ユピテリア」は僕のお気に入りだったので、主人公と一緒に自爆してしまつたのは、僕にとつてはとてもショックだつた。

その後の終盤には、アルタイルと似た姿をしていて、『森羅万象』^{ホロブシコン}も使えるオリジナルのキャラクターが出てきて、アルタイルを圧倒し、最後はアルタイルを乗っ取ろうとするが、逆にアルタイルに乗っ取られてしまい、残つたキャラクター達が絶対絶命の時、周りの背景が駅に代わり、そこからアルタイルを生み出した創造主「シマザキセツナ」が現れて、アルタイルと対話をし、最終的にはアルタイルが彼女のための世界を創るべく、『森羅万象』^{ホロブシコン}でセツナとともに別世界へ旅立っていつて、ここからエンドロールが流れて終わってしまった。

外をみると、イベントは夜から始まつたので、気付くともう朝になってました。

このイベントは、僕にとつて心に刻まれた最高の思い・・・

? 「「「「回想シーン長いわああああああ!!」「」」」」

? 「あだあああああ!!」

二本足の三毛猫「おい、てめえ何してんだよ!!折角本編が始まるうとしてるのになに自分の回想シーン流してんだよ!!」

主人公「いや、だって……読者に主人公の過去に何があったのか分からせたいと思っ
て、つい……」

カワイイ系美少女「ついでこんなに流しちやダメでしょ!」

小さい天使型ロボット『ソウダソウダ!!』

クール系美少女「その通りだ。折角作者が本編を始めると言ったのに回想シーンを流
してしまつては。」

悪魔の姿をした影「……!!」

4本腕ロボット「今度から絶対に止めてくれよ!!……とこの方は言っております。」

主人公「はい、すみませんでした。」

仮面のローブの男「申し訳ございません。読者の皆様、主人公が勝手に長い回想を流
してしまつて、ですので皆様にこれを差し上げますので許して下さい。」

炎のような怪人「おい!!それはまさか!?!」

仮面のローブの男「はい、あの方のエツロイ写真しゅ」

グラマー系美女「コラアアアアアアアア!!」

二人「ギヤアアアアアアアアアア!!」

美少年「そ、それでは、次回の本編をお楽しみに！」

第2話 Starts moving story (物語が動きだす)

MOVE……それは、動くという意味。

動く絵には生命いのちが宿る。

紙に描かれたキャラクターは、一見普通の絵だが、パラパラ漫画のようにすると、生命いのちが吹き込まれたかのように動き出す。

小説や漫画作品などは、人気があればあるほど、その作品はアニメ化や実写化になり、キャラクターに生命いのちが吹き込まれ、世界は産声をあげて誕生する。

創造された世界のキャラクターから見れば、僕達は神様のような存在なのだろうか？
もし、そのキャラクターが現実世界に出現すれば、世界は一体どうなるのだろうか。

—大学—

？「また『チエーンソー男』のニュースが出たか。」

とある大学の放課後、ベンチに座り、スマホでインターネットに出てる『チエーンソー男』のニュース記事を見て眩く、黒髪でイケメンに近い青年がいた。

彼の名は「寺☒裕也」19歳。アニメと漫画、ゲームが大好きな、何処にでもいる大學生だ。

彼は今、最近ニユースになっている都市伝説怪人『チエーンソー男』を気にかけていた。自分の想像だと、「スレンダーマン」などの怪人は、噂が広まったことで思念が具現化した存在なので、『チエーンソー男』もその一種だと推測していた。

そんな事を考えていると……

？「わっ!!」

裕也「うわっ!!」

後ろから誰かが大声を出して裕也を驚かせた。

？「よっ!」

裕也「何だよ、真奈かよ!!」

後ろから裕也を驚かせた茶髪のポニーテールの女性は「桐嶋真奈」19歳。裕也とは小学校からの幼馴染で、大学も一緒に通っている腐れ縁な存在だ。

裕也「真奈!いつもいつも驚かさないでよ!」

真奈「だってえええ、これぐらいの事で驚く裕也の反応がさあ、面白いんだもん。」

裕也「面白くてもやんなよ!」

真奈「それよりもさあ、また見てんの、『チエーンソー男』のニユース?」

真奈は、これぐらいで驚く裕也の反応が面白い話から『チェインソー男』の話に切り替えた。

裕也「ああ、今度の『チェインソー男』のニュースはさ、『正体を暴こうとカメラとビデオカメラを持った男性二人がチェインソー男に襲われて行方不明』だつてよ。」

真奈「え、遂に被害者が出ちゃったの？」

裕也「うん、被害場所は代々木公園で、男性二人が持ってたカメラとビデオカメラだけが地面に残つてて、遺体だけが見つかからないんだよ。」

真奈「これはもう殺人事件ね。早く警察に捕まれないかなあ。」

裕也「え、何言ってるの、コイツ怪人だよ。警察には手が追えないよ。」

真奈「怪人っていつても、周りが見た目で怪人だと判断してるだけかもしれないし、よく見たら本当は怪人に見立てるように変装した人間かもしれないよ。それだったら警察でも銃があれば楽勝じゃん。」

裕也「そうかなあ？」

真奈「そうだよ！」

裕也「はあ……。」

裕也はその結論に疑問を持ったが、真奈は強気で言い放ち、それを聞いた裕也は何も言い返せなかった。

—大学の帰り—

裕也「さあて、明日は土日で休みだし、その土日は親が友達の結婚式に行くから居ないし、まずは家に帰ったら何しようかなあ。」

裕也は真奈と別れた後、裕也は今週の土日は親が友達の結婚式に呼ばれて居ないので、何をしようか歩きながら考えていた。

裕也「とりあえずその前に、コンビニに夕飯の弁当を買ってこようつと。」
そう決めて裕也は、コンビニに向かって歩いて行った。

—コンビニの近く—

裕也「あ、見えてきた。さて、何にしよっかなあ。」

コンビニに近づいてきた裕也は、何を買うか考えながら歩いた。

裕也「それじゃ今日は、焼き肉弁当にし……ん？」

コンビニにたどり着いた時、裕也は辺りの光景を見て違和感を持ち、立ち止まった。

裕也「な、何これ？」

裕也が目にした光景は、コンビニの近くにある建物や車、地べたのコンクリートなど

に何かに斬られたような跡が沢山あり、その斬られた跡から小さな青いドットのポリゴンのような物体が出てきて煙のように漂っていた。辺りをよく見ると、背中に深い傷をおった男性が地べたに倒れていた。

裕也「だ、大丈夫で……!?!」

裕也は倒れた男性に駆けつけ、近づくとその男性の身体が徐々に青いドットのポリゴンになり、消滅した。

裕也「い、一体何が起こっ……!?!」

一体何が起きたのか裕也は混乱していると、後ろから不気味な何かが近づいて来ると気付く、裕也は後ろを振り向くと、そこにいたのは……

? 「グオオオオオオオ……」

右腕がチエーンソーになっており、左腕に剣状のチエーンソーを持った、最近になって現れてニュースになっている怪人『チエーンソー男』だった。驚いた裕也はチエーンソーのチエーン部分をよく見ると、赤い血がべつとりと付いていた。

裕也「ま、まさか……これ全部お前がやったのか!?!」

裕也は大惨事になった光景と男性の背中に傷を負わせ、消滅させたのがコイツの仕業だと確信し『チエーンソー男』に質問したが、『チエーンソー男』は一切答えず裕也に近づき……

チエーンソー男? 「グオオオオオオオ!!」

裕也「な!?!」

思いつきり空中にジャンプし、左腕に持つ剣状のチエーンソーで突然裕也に斬りかかってきた。

第3話 変身!!

チエーンソー男? 「グオオオオオオオ!!」

裕也 「な!」

思いつきり空中にジャンプし、左腕に持つ剣状のチエーンソーで突然裕也に斬りかかってきて、裕也はやられると思い、目を瞑った。その時……

? 「ハアアアアツ!!」

チエーンソー男? 「グオツ!」

裕也 「!?」

裕也に斬りかかってきたチエーンソー男は何者かに攻撃を受けて倒れ、裕也は九死に一生を得た。

? 「大丈夫ですか?」

裕也 「は、はい……」

裕也を助けてくれたのは、髪色がオレンジで全身にオレンジ色の天使のような衣装を身に纏い、右腕には光の刃がついた剣を握った少女だった。

レーザーソード? 『ますたー、ハヤクアイツヨヤツツケヨウ。』

? 「分かつてるよルルエル! 此処は私に任せてあなたは早く逃げてください!!」

裕也 「あ、はい……あれ、今剣が喋った!？」

? 「いいから早く逃げて!!」

裕也 「はい!!」

謎の少女に言われた通り逃げようとしたが、剣が喋ったことに驚き、一瞬動きを止めてしまったが、また少女に言われて返事をし、逃げるように走った。

チエーンソー男? 「グオオオオオオ!!」

? 「!？」

少女から攻撃を受けたチエーンソー男はすぐに立ち上がり、左腕に持つ剣状のチエーンソーを頭上にかざしてエネルギーを溜めるかのように光らせ、一振りするとそこから紫色で丸いノコギリ状の光弾を6発放った。

? 「うりやつ!! とりやつ!! はあっ!!」

少女は3発の丸いノコギリ状の光弾を光る剣を3回振って破壊したが、残りの3発の丸いノコギリ状の光弾が走って逃げる裕也に向かっていった。

? 「危ない!!」

裕也 「え? うわあっ!？」

すぐに後ろを向いた裕也が3発の丸いノコギリ状の光弾に気付き、目を瞑って顔を腕

で覆って覚悟したその時だった。

? 「はっ!!」

? 『よつと!!』

裕也 「……え?」

? 「秋奈、気を付けろ……あとちよつとでこの人にあたるとこだったぞ。」

? 『間一髪でしたねえ。大丈夫でしたかお兄さん?』

裕也 「は……はい。」

秋奈 「ごめんね美香ちゃん、レオパルド。」

痛みが来ないので腕を降ろし目を開けると……3発の丸いノコギリ状の光弾から守ったのは、綺麗な黒髪のアートヘアで右手に黒い刀を持ち、黒と赤がメインの和風の服を着た美香という名の美少女と、頭部に3本の角、4本の腕が付いた全身銀色のレオパルドという名のロボットのだった。あと、最初に裕也を助けた少女は秋奈という名で、美香とレオパルドに謝った。

チエーンソー男? 「グオオオオオオオ!!」

美香 「秋奈、危ない!!」

秋奈 「!?!」

秋奈が余所見をした瞬間にチエーンソー男が今度は右腕のチエーンソーで秋奈を襲

い掛かったが……

チエーンソー男? 「グオツ!？」

その瞬間、遠距離から一発の弾丸が飛んできて、チエーンソー男の頭部に当たって火花がなり、チエーンソー男は怯んだ。

秋奈「ありがとう、ミケ!!」

秋奈は何かに気付き、遠くのビルの上にいるミケという名の者に叫んで礼を言った。

チエーンソー男? 「グウウウウ、グオツ!？」

チエーンソー男は怯んだ瞬間、地面から黒い影が現れて、全身に絡まって動けなくなった。

? 「……………!!」

レオパルド『よし、今だやれ!! ……といっております。』

? 「分かってらい!! どりやああああああ!!」

チエーンソー男? 「グオオオオオオオ!!」

チエーンソー男を拘束した影が不気味な声を発し、レオパルドはその声を略して言う
と、上から炎の姿をした超人が急降下してきて、チエーンソー男の顔面に右腕に装備された手甲でパンチを叩き込み、チエーンソー男は殴られた勢いで地面に転がり倒れた。

レオパルド『ナイスパンチです！フォルス殿！』

フォルス「おう、ていうかコレ装備してるのにアイツ案外かてーなーな!!」

レオパルドは炎の姿をした超人のことをフォルスと呼び、ナイスパンチと褒めた。

フォルス「それで、あの二人はどうしたんだ？」

美香「あの二人は、現界された被造物（キヤラクター）を保護しに行つた。もう保護された頃になるだろう。」

フォルス「そうか、それでお前らの後ろにいるソイツは何だ？」

フォルスは残りの二人の居場所を聞き、そして後ろにいる裕也を指をさして聞いてきた。

レオパルド『この方は逃げ遅れて襲われかけるところを私達が助けましたが、今の状況を見て、頭が追いつけず混乱している所で。』

裕也（え、えっと……僕は今、チエーンソー男に襲われかけた所を剣を持った少女が助けてくれて、その後にロボットと刀を持った少女がまた僕を助けてくれて、それでその後……？）

レオパルド『ほら、この通り。』

裕也は今、色んな事が起こりすぎて、頭が混乱していた。

フォルス「つたく……早くソイツをどっかに避難させ……。」

フォルスがそう言おうとした、その時……。

チエーンソー男? 「グオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!」

『「!!!?!」!!!』

フォルスに殴られて転がり倒されたチエーンソー男が立ち上がり、怒り狂ったような叫び声を出して全速力でフォルスと秋奈に突進して来た。

フォルス 「ぐほおおおおおおおおお!!」

秋奈 「きやああああああああ!!」

フォルスと秋奈はチエーンソー男の突進を受け、美香とレオパルド、裕也のいる場所まで吹き飛ばされ、地面に激突する前に美香とレオパルドが二人を受け止めた。

美香 「秋奈、フォルス、大丈夫か!?!」

秋奈 「あ、ありがとう、美香ちゃん。」

フォルス 「あ、あの野郎……。」

レオパルド 『完全に怒ってしまったようですね。』

チエーンソー男? 「グオオオオオオオオオオオオオオオオ!!」

怒り狂ったチエーンソー男は、体中から丸いノコギリ状の光弾を大量に生成し、裕也を含む全員に放ってきた。

? 「……!!」

全員に当たる瞬間、先ほどチーンソー男を拘束した影が全員を守るかのように身体全体を広げ、丸いノコギリ状の光弾を受けた。

美香「シャドー!!」

シャドー「……………!!」

レオパルド『早くその人を何処かに避難させて!!……………と言っております。』

秋奈「解った、ほら、早く!!」

裕也「はい!!」

美香はその影の名をシャドーと呼んで、シャドーは全員に不気味な声を出し、レオパルドが略すと裕也を何処かに避難させると言つて、秋奈は裕也の手を握つて何処かに避難させようと走つた。

フォルス「くそおおおお、どうすらばいいんだこの状況!!」

美香「…やはりアレを使うしかない。」

フォルス「は……………ちよつと待て!アレってまさか、アレを持ってきたのか!!」

美香「ああ……………」

美香は何処からか、DVDプレイヤーに似たベルトと赤色のディスクを取り出し、腰に巻き付けた。

レオパルド『いけません!それは私達でも一度も変身に成功したことはないんですよ

!!あなたでも変身することが出来ません!!

美香「大丈夫だ。絶対に成功してみせる!!」

そう言った美香はチエーンソー男が丸いノコギリ状の光弾を放つのを止めた瞬間、シャドーの前に立ち、腰にはめたDVDプレイヤーに似たベルトの透明ケースを開け、赤色のディスクをはめた。

『アクシヨン!!』

赤色のディスクをはめた瞬間に電子音声が鳴り、美香は透明ケースを閉じ、こう叫んだ。

美香「変身!!」

叫んだ瞬間に右側のボタンを押し、変身しようとしたが……

『エラー!!』

別の電子音声がなった瞬間、強制的に美香の腰から外れて地面に落ち、美香もその衝撃で倒れた。

美香「く、くそ!!」

成功しようとしたが失敗し、悔し涙を流すと……

チエーンソー男? 「グオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!」

美香「!?」

レオパルド、フォルス『「危ない!!」』

チエーンソー男は美香に突進してきて、レオパルドとフォルスはそれを阻止しようとしたが、チエーンソー男は3人を無視し、秋奈と裕也に向かって走っていった。

フォルス「なに!？」

レオパルド『「狙いはあつちですか!!」』

美香「秋奈、逃げろ!!」

秋奈「え? きやああああああああ!!」

裕也「!?」

チエーンソー男は秋奈の肩を掴んで数メートルまで投げ飛ばし、裕也の頭上に右腕のチエーンソーを振りかざして襲い掛かった。

チエーンソー男? 「グオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!」

裕也「うわああああああああああ!!」

裕也は今度こそやられると思いい目を瞑り、そして頭上にチエーンソー男の右腕のチエーンソーが来て、裕也は真つ二つにされた……

はずだった。

裕也「……………ん、あれ、え……………!!」

チエーンソー男に斬られそうになった瞬間、頭上から何か裕也を守った。裕也は周囲を見ると、全員裕也の遠距離に居て、頭上をよく見ると、裕也を守ったのは……………

先ほど美香が腰に巻きかけて外れた、DVDプレイヤーに似たベルトだった。

美香「な、なに!?!」

フォルス「う、嘘だろ!?!」

秋奈「何で!?!」

シャドー「……………!?!」

レオパルド『そ、そんな馬鹿な!?!と云っておりますが、こんなことは私でも予想外ですよ!?!』

5人は信じられないほど驚愕していた。

チエーンソー男? 「グオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!?!」

裕也「な!?!」

次の瞬間、謎の衝撃波が放たれ、チエーンソー男が吹き飛ばされた。

裕也「わっ!?!」

その後に裕也の腰に勝手に巻き付き、透明ケースのフタが開いた。

(そこに赤色のディスクをはめ込め。)

裕也「え、今何か……?」

(はめ込め!!)

裕也「は、はい!」

裕也の頭から聞こえてくる謎の声を聞き、言われた通り、右手にある赤いディスク(いづまにか握っていた)をベルトにはめ込んだ。

『アクション』

先ほどと同じように電子音声が鳴り、ケースを閉めた。

『変身と叫んで、右側のボタンを押せ!!』

裕也「へ……変身!!」

と叫んで、右側のボタンを押した瞬間……

『スピニングチェンジ!! アクション!! 戦え!! 戦慄のファイター!! アクション
バトラー!!』

辺りに電子音声が鳴り響き、透明ケースにはめ込んだディスクが回りだし、裕也の前に赤色のディスクに似たエネルギーが現れ、それにひびが出てきて割れた瞬間、自分の全身にエネルギーの破片が包み込んで、その破片は段々装甲へとなり、裕也の身体は装甲を纏った姿となった。

頭部には黄色の複眼と二つの触覚、胸部には赤いリングの模様が付き、全身のメインカラーは赤色と銀色の姿で、その姿はまるで、変身ヒーローのようだった。

裕也「な……なんだこりやあああああああああああああああああああ!!」
裕也は自分の姿を見て、驚愕した。

『Play back!!』

第4話 Combat start (戦闘開始) !!

とある艦内のルーム。そこには仮面をつけたローブの男が椅子に座りながら巨大なモニターで映像を観ていた。だが、とあるシーンを見て驚愕していた。

とあるシーンとは、一人の青年がDVDプレイヤーに似たベルトを腰に巻き付け、変身するシーンだった。

？「なぜ現実世界の人間がムーヴドライブとチェンジディスクが使えるんだ!?」
仮面をつけたローブの男は立ち上がり、何処かへ走っていった。

裕也 「な …… なんだこりや

ああああああああああああああああああああああああああああああ!!」

変身した裕也の姿は全身赤、銀のメタリックカラーの装甲を纏っており、頭部には黄色の複眼と二つの触覚、胸部には赤いリングの模様が付いていて、その姿はまるで変身ヒーローのようだった。

この姿こそ、この物語の主演のヒーロー『仮面ライダームーヴ』だ。

仮面ライダームーヴ「何この姿…音声の流れでそれで、でもカッコイイ!!」
自分の姿がカッコよくて見とれていると……

チェーンソー男? 「グオオオオオオオ!!」

仮面ライダームーヴ「?!」

そうしていると、吹き飛ばされたチェーンソー男がムーヴに向かって走ってきて、剣状のチェーンソーを振って攻撃してきた。

仮面ライダームーヴ「うわつと!!」

チェーンソー男? 「?!」

剣状のチェーンソーが振ってきた瞬間、ムーヴは真剣白刃取りで剣状のチェーンソーをキャッチして静止させ、チェーンソー男を驚かせた。

チェーンソー男? 「グオオオオオオオ……」

仮面ライダームーヴ「うぐぐぐ……」

チェーンソー男はもの凄いい力で抑えられた剣状のチェーンソーを押したが、ムーヴも負けじと同等の力で耐え続けていくと、剣状のチェーンソーにヒビが入り……

仮面ライダームーヴ「セリヤアアアアアアアアアアアアアアアアアア!! (○)」

チェーンソー男? 「グオオオオオオオオ!!」

『「?!」』

ムーヴは剣状のチェインソーを両手に挟んだままもの凄い怪力で折り、チェインソー男と他の者達を驚愕させた。

仮面ライダームーヴ「何だこれ、凄い、体中に力が湧いてくる。このスーツのおかげ？」

ムーヴこと裕也は自身に纏っているメタリックスーツのおかげで体中に力が湧いて強くなっており、チェインソー男と同等になっていた。

フォルス「おいおい、どういう事だよ。何で現実世界の人間がムーヴドライバーとディスクが使えるんだよ!!」

レオパルド『いや、私に言われても、私も今予想外の事が起こったのでよく分かりません。』

フォルス「はああああ!! 何言ってるんだよ、いつものセリフの『私の予想通り』はどうした!?! どこ行った!?!」

秋奈「ちよつと落ち着いて、二人とも!!」
ルルエル(剣モード)『ソウダヨオチツイテ!!』

美香「そうだ!! 今は変身したアイツと協力して奴を倒すのが先だ!!」
シャドー「……(そうだよ早く!!)」

フォルス「ちつ! 解ったよ!!」

レオパルド『了解しました!!』

フォルスはレオパルドに聞いたが彼も予想外の起きてよく分からず、秋奈とルルエル（剣モード）と美香とシャドーにそのことを後にと言われて二人は頷き、全員は変身した裕也に向かつて走っていった。

チエーンソー男? 「グオオオオオオオオ!!」

仮面ライダームーヴ 「うわっ!! おつと!! あぶなっ!! ぐわっ!!」

一方、チエーンソー男はムーヴに剣状のチエーンソーを折られたことに怒りだしたのか、右腕のチエーンソーで4回振って攻撃したが、ムーヴは紙一重で避けていて3回攻撃は当たらなかったが、4回目で当たってしまった。

仮面ライダームーヴ 「いってて…な!!」

チエーンソー男? 「グオオオオオオオオ!! ……グオツ!!」

ムーヴは攻撃された部分を抑えていると、チエーンソー男は追い打ちをかけるように向かってきたが、その瞬間に火の玉が飛んできて、頭部に受けて怯んだ。

仮面ライダームーヴ 「何だ今の「おいお前!」?」

ムーヴは後ろから声を掛けられて振り向くと、裕也を助けた二人の少女と4つ腕のロボットと悪魔の姿をした影と炎の超人がいた。

仮面ライダームーヴ 「あなた達は、一体何者ですか?」

フォルス「その説明は後でするから、ちょっと協力してくれねーか。」

仮面ライダームーヴ「きよ、協力?」

レオパルド『ええ、『イレギュラー』を倒すのを手伝ってくださいとのことです。』

美香「あの『イレギュラー』を倒さないと、ターゲットにされた被造物は元の世界には帰れないんだ。」

仮面ライダームーヴ「イレギュラー、被造物、元の世界?」

秋奈「お願いです、手伝ってください!!今のあなたなら『イレギュラー』を倒せるはずなんですよ!!」

ルルエル(剣モード)『オネガイシマス!!オネガイシマス!!』

シャドー「……!!」

レオパルド『協力して奴を倒そう!!と言っております。』

仮面ライダームーヴ「……解りました、協力します!!」

秋奈「ありがとうございます!!」

ムーヴこと裕也は全員に協力してくれと言われて裕也は一瞬戸惑ったが、協力すると返事した。

フォルス「よし!それじゃお前ら、おっ始めようか!!」

レオパルド『ええ!!』

美香「ああ!!」

秋奈「うん!!」

ルルエル（剣モード）『よつしやああああああ!!』

シャドー「……!!」

レオパルド『行くぜ!!……と言っております。』

仮面ライダームーヴ「はい!!」

フォルスの掛け声で仮面ライダームーヴ達はチェーンソー男こと『チェーンソー・イレギュラー』に向かって走り出し、攻撃し始めた。

美香「はああああああ!!」

秋奈「やああああああ!!」

美香は腰に掛けた機械でできた黒色の刀を鞘から抜き取り、黒い炎の斬撃をチェーンソー・イレギュラーに向かって放ち、秋奈はルルエル（剣モード）の刀身を光らせ、光の斬撃を美香と同じようにチェーンソー・イレギュラーを向かって放ったが、

チェーンソー・イレギュラー「グオオオオオオ!!」

美香と秋奈の斬撃を受ける瞬間に上空にジャンプし、斬撃を避け、今度はチェーンソー・イレギュラーは右腕のチェーンソーを光らせ、紫色の斬撃を美香と秋奈に放とうとした瞬間……

レオパルド『させません!!』

チエーンソー・イレギュラー「グオツ!?」

チエーンソー・イレギュラーの背後からレオパルドが現れ、4つの腕に持つ4本のレーザーソードで背中を切り裂かれ、チエーンソー・イレギュラーは地面に落下し、落下した衝撃で地面にクレーターができた。だがチエーンソー・イレギュラーが立ち上がった瞬間……

チエーンソー・イレギュラー「グウオオオオ……」

仮面ライダームーヴ「うりやあああああ!!」

チエーンソー・イレギュラー「グオツ!?!」

仮面ライダームーヴ「うりやりやりやりやあああああ!!」

チエーンソー・イレギュラー「グオオオオオオ!!」

仮面ライダームーヴは右ストレートをチエーンソー・イレギュラーのボディに放ち、続いて連続パンチを繰り返して出し、チエーンソー・イレギュラーを追い詰めた。

チエーンソー・イレギュラー「グオオオオオオ!!」

仮面ライダームーヴ「!?」

チエーンソー・イレギュラーは右腕のチエーンソーを仮面ライダームーヴに振り下ろしたが、その瞬間に後ろにバックして避け、地面に振り下ろされた右腕のチエーンソー

の衝撃で砂煙が発生し、全員砂煙に飲み込まれ、視界が見えなくなった。

仮面ライダームーヴ「皆さん、気を付けて下さい!!」

フォルス「解つてる!!」

レオパルド『……。』

美香「……。」

秋奈「……。」

シャドー「……。」

砂煙に飲み込まれたムーヴ達は辺りを警戒し、左右を見ていると……

チェーンソー・イレギュラー「グオオオオオオ!!」

フォルス「な!!ぐわっ!!」

フォルスの後ろ側からチェーンソー・イレギュラーが現れ、フォルスはチェーンソー・イレギュラーの左リアットを喰らって地面に倒れた。

シャドー「……!!」

気付いたシャドーがチェーンソー・イレギュラーに右腕を伸ばし、右手に装備された鋭い爪で攻撃したが……

ガシッ!!

シャドー「!!」

チエーンソー・イレギュラー「グオオオオオオ!!」

チエーンソー・イレギュラーはシャドーの攻撃を避け、左腕でシャドーの右腕を掴み、空中に振り回して地面に叩きつけた。

シャドー「キューー……」

秋奈「だ、大丈夫!」

レオパルド『シャドー、しっかりしてください!!』

振り回されたシャドーは目を回して気絶していた。

フォルス「コノヤローー!!」

チエーンソー・イレギュラー「グオツ!」

フォルス「オラーーー!!」

チエーンソー・イレギュラー「グゴオーー!!」

地面に倒れたフォルスはチエーンソー・イレギュラーに手のひらをむけて火炎を放射し、怯んだ瞬間に立ち上がって顎にアッパーを喰らわせた。

チエーンソー・イレギュラー「グオツ!!」

フォルス「グホツ!」

チエーンソー・イレギュラーは立ち上がったフォルスの腹に蹴りを喰らわせ、数メートルほど飛ばした。

仮面ライダームーヴ「大丈夫ですか!？」

フォルス「くそー、お前がアイツの武器を壊したせいで怒り狂ってるぞ!!」
仮面ライダームーヴ「そんな事言われても…」

美香「仕方ないだろ、コイツにとっては初めての戦いだからな。」

秋奈「でも早く倒さないと、また『2・5次元の狭間』に逃げちゃうよ!!」

レオパルド『こうなったら、あなたの必殺技で倒すしかありませんね。』

「「え?」」

仮面ライダームーヴ「え…ぼ、僕に必殺技なんてありません…」

レオパルド『いや、今のあなたはよくわかりませんが変身成功して特撮ヒーローみたいな姿になっているので、最後は必殺キックで倒すのがオチですよ!!』

仮面ライダームーヴ「でもどうやって必殺技を…」

レオパルド『えーとまずは、変身する時に押したボタンを2回押して下さい。』

仮面ライダームーヴ「えっと、コレですかね…」

仮面ライダームーヴはレオパルドに言われた通り2回ボタンを押すと…

『スピニングチャージ!!』

仮面ライダームーヴ「?!」

音声が続いた瞬間、ベルトにはめ込んだディスクが高速回転し始め、そこからエネルギー

ギーが発生し、右足にエネルギーが溜まるかのように光だした。

チエーンソー・イレギュラー「グオオオオオオオ!!」

レオパルド「今です!!」

仮面ライダームーヴ「!!」

『Climax finish』

音声が鳴った瞬間、全員に突っ込んできたチエーンソー・イレギュラーに向かうかのように仮面ライダームーヴは走り出して思いっきりジャンプし……

仮面ライダームーヴ「うりやあああああ!!」

チエーンソー・イレギュラー「グボオオオオオオ!!」

胸部分に飛び蹴りを喰らわせ、チエーンソー・イレギュラーは地面に引きずり倒れた。

チエーンソー・イレギュラー「グオオオオ、グオツ!!」

飛び蹴りを喰らっても立ち上がったが、蹴られた胸部分にひびが入り、突如チエーンソー・イレギュラーの全身が光り出し、そして……

チエーンソー・イレギュラー「グ、グ、グボアアアアアアアアアアアアアアアアアア

!!」

大爆発し、消滅した。

フォルス「た、倒しやがった。」

秋奈、美香「……………」

レオパルド『イレギュラー退治、完了。』

仮面ライダームーヴ「やった、勝つ…あれ、意識が……」

フォルスはイレギュラーを倒したことに驚き、秋奈と美香は呆然とし、仮面ライダームーヴは喜びの声を上げようとした瞬間、意識が薄れ始め、変身が解除された裕也は地面に倒れて気絶した。

フォルス「お、おい、気絶してやがる。」

美香「なぜ、現実世界の人間のコイツがこのベルトとディスクが使えたんだ？」

秋奈「どうしよう、この人？」

レオパルド『…船に連れて行って、検査でもしてみましようか。』

秋奈「え、いいの、この人を船に連れてって？」

美香「何を言ってるんだ秋奈、コイツは私達が使えなかったベルトとディスクを使えただぞ。まずその謎を解かないといけないんだぞ。」

秋奈「え、でも、隊長に許可をもらわないと……」

フォルス「大丈夫だって、訳をはなせば分かってくれるって。」

レオパルド『それでは、帰還しましょう。』

フォルスは倒れた裕也をお姫様抱っこをし、レオパルドは何処からか妙な装置をだし

て、ボタンを押した瞬間に目の前に魔法陣が発生して全員を飲み込み、消えた。

第5話 ANIMATION (アニメント)

裕也「うーん……あれ、此処、何処？」

目を覚ますと、裕也は知らない部屋のベッドで寝ており、部屋の周囲を見ると、見たことないものばかりの置物や飾りなどがあつた。

裕也「確か僕はチエーンソー男に襲われかけて、そしたら変な人達に助けられて、それで……。」

裕也は、先ほどまで何があつたのか思い出しながら、部屋の出入り口を開けて、廊下に出た。

裕也「何なんだ此処、まるで船の中にいるようだ。」

歩きながら廊下を探索していると、少し先に大きな扉があり、その扉は開きかけていたので、裕也は恐る恐るその室内に入つてみると、その室内はまるでSF作品に出てきそうな船のコックピットルームだった。

裕也「す、凄い……まるでアニメにでてきそうなものばかりだ。……ん、あれって……。」
コックピットルームにある装置などを観察していると、ホログラムで出来たモニターに映像が流れているのを発見し、その映像をよく見ると……。

裕也「こ、これは……。」

モニターに流れていたのは、謎のDVDプレイヤー型のベルトとディスクを使って変身する裕也の姿が流れていた。

裕也「あれは、夢じゃなかったのか……。」

？「その通り、この映像とこの艦にいる時点で夢じゃない、現実だ。」

裕也「……！」

後ろから謎の声が裕也に向かって話しかけてきて、驚いた裕也は後ろを振り向くと、そこには銀色の機械の仮面を被ったローブの男と、あの時助けてくれた二人の少女と、4つ腕のロボットと、炎の姿をした超人と、悪魔の姿をした影が後ろにおり、他にも背中に光る翼が付いた小型ロボットと、宝玉の杖を持ったグラマーの女性とライフル銃を持った二足歩行の三毛猫と腰にカードデッキケースを付けた中学生ぐらいの少年が居た。

？「初めまして寺~~□~~裕也さん、そしてようこそ、我が組織『ANEMENT』へ。」

裕也「……へ？」

それを聞いた裕也は、訳が分からず沈黙した。

？「まあ、このことを聞いても分からないでしょうね。まず私から自己紹介をしま

しよう。私の名はデイメス。この『ANEMENT』の一つのチームを率いるリーダーです。よろしく願います。」

裕也「は、はい……。」

銀色の機械の仮面を被ったローブの男は自らをデイメスと名乗り、裕也に自己紹介した。

裕也「それで何で、僕の名前を知ってるんですか？」

デイメス「君が寝てる間に調べたんだよ。」

どうやら裕也が寝てる間にどんな人なのか調べられたようだった。

デイメス「さて、裕也さん。あなたに私のチームメンバーを順番に自己紹介しますが、全員、漫画かアニメ作品などのキャラクターに似てますよね。」

裕也「確かに、皆さんの姿、まるで漫画かアニメから出てきた本物のキャラクターみたいに凄くそっくりです!!」

裕也はデイメスを除いて全員をよく見ると、漫画かアニメ、ゲームなどで見た事がある衣装や姿をしており、余りにも似すぎていた。

だが、裕也はデイメスの返答を聞いて驚愕した。

デイメス「ええその通り、皆さん全員、漫画、アニメ作品の世界から来た本物のキャラクター何ですから。」

裕也「……え……?」

裕也はまた、訳が分からなくなって沈黙した。

裕也「な、何言ってるんですか。この人達はコスプレが完璧すぎて似すぎてるだけじゃ……?」

デイメス「いや、コスプレなどではありません、全員本物です。証拠を見せてあげますよ。美香、得意なアレをやってくれないか。」

美香「解った。」

デイメスに言われ、黒髪の少女、美香は少し前進し、腰に掛けている太刀を引き抜いた瞬間、太刀筋から黒い炎が発生した。

裕也「うわっ!?!」

これを見た裕也は驚いて尻餅をついた。

デイメス「見ましたか、この少女も含め、全員、物語世界から現界された本物の『被造物』^{キャラクター}達ですよ。」

裕也「う、嘘でしょ……。」

今の炎とデイメスの言葉を聞いた裕也は、信じたくても信じられない複雑な気持ちになつた。

第6話 被造物（キャラクター）

デイメス「裕也さん、あなたはまだ混乱しているようですが、皆さんの自己紹介をしても宜しいでしょうか？」

裕也「は、はい、お願いします。」

裕也はデイメスの部下のメンバー全員が様々な作品世界の登場人物の一人だと言われて混乱していたが、考えるのを止めてデイメスを除くメンバー全員の自己紹介を聞くことにした。

デイメス「では、自己紹介を始めましょう。まず最初の一人目は、本物のキャラクターであることを証明させたのは、自らの愛刀『漆黑刀（ブラックブレイド）』から呪いと呼ばれる発火能力『黒炎』を生み出して操る彼女の名は『黒神美香』。漫画が原作で、完結されたダークファンタジーアニメ作品『黒炎のミカ』の主人公です。」

美香「……よろしく。」

裕也「よ、よろしくお願いします…。」

自己紹介された後、美香は裕也に小さな口調で挨拶しながら右手を出し、裕也も挨拶を返しながら右手を出して互いに握手をした。

デイメス「二人目は、火、水、風、土の4つの属性を生み出して操る人型の精霊『フォルス』。小説が原作で、完結された人気アニメ作品『最強の精霊使いになっちゃった!』の主人公の相棒です。」

フォルス「フォルスだ、よろしくな。」

裕也「は、はい。」

レドルスは裕也にため口で挨拶した。

デイメス「三人目は、天使型ロボットを操って戦う彼女の名は『姫島秋菜』。大人気アブリが原作で、完結されたバトル系美少女アニメ作品『メタルガールズ・アカデミア』のヒロインです。そして彼女の横にいるのは、様々な武器などに変形する相棒の天使型ロボット『ルルエル』です。」

秋奈「は、初めまして、姫島秋菜です。どうぞよろしくお願いします!!」

ルルエル『オウ、るるえるだ。ヨロシクシクー。』

秋奈「ちよつとルルエル!! そんな言い方しちやダメって言うてるでしょ!!」

裕也「あ、あはは……。」

秋奈は裕也に元気良く挨拶したが、ルルエルは変な言い方で裕也に挨拶したので秋奈に注意され、裕也は苦笑いした。

デイメス「四人目は、カードデッキからモンスターを召喚して操る少年の名は『角谷

龍太』。子供から大人まで大人気のトレーディングカードゲームが原作で、完結されたキッズ向けアニメ作品『デュエルバトルーズ』の主人公のライバルです。』

龍太「初めまして裕也さん、角谷龍太です。」

裕也「ど、どうも。」

龍太は裕也に敬語で挨拶した。

デイメス「五人目は、光属性の攻撃魔法や防御魔法を操る彼女の名は『エリイ・ミタリアス』。完結されたオリジナルファンタジーアニメ『ブレイブ・スレイヤー』のヒロインです。」

ミタリアス「ミタリアスといいます。どうぞよろしく。」

裕也「よ、よろしく……。」

ミタリアスは裕也に挨拶したが、裕也は見た事ないデカさの彼女の胸に一目見て目を逸らした。

デイメス「六人目は、自分より長いライフル銃を使い、遠いところから標的を狙い撃ちすることが出来る猫『ミケ』。漫画が原作で、完結されたギャグバトルアニメ『キャットスナイパークロ』の主人公のライバルです。」

ミケ「だから猫じゃねえって!!元人間だ!!」

裕也「……………」

ミケがデイメスにツツコミを入れるのを見て、裕也は沈黙した。

デイメス「七人目は、様々な武器や薬を発明することが出来る4つ腕の天才ロボット『レオパルド』。漫画が原作で、完結されたロボットミステリアアニメ『マシン探偵』のメカニッカーです。」

レオパルド『どうも、レオパルドといいます。私の手作りキャンディーをあげますので、後で食べてみてくださいくださいね。』

裕也「あ、ありがとうございます。」

レオパルドは裕也に挨拶した後、自身が作ったキャンディーを裕也にくれた。

デイメス「最後の八人目は、様々な影に乗り移ったり、様々な物体を体内に収納したり、全身を色んなものに変形、分裂することが出来る悪魔のような存在『シャドーデビル』。小説が原作で、完結されたホラーアニメ作品『シャドーデビル』の主役で悪役だが、今では私達の頼もしい味方です。」

シャドー「……!!」

レオパルド「どうぞよろしく!!と言っております。」

裕也「は、はい。」

シャドーは不気味な声で発したが、レオパルドが翻訳してくれたようで、裕也に挨拶したようだった。

デイメス「それじゃ、自己紹介も終わったことですし、次の説明に行きましょうか。」
裕也「つ、次って、まだあるのですか!？」

自己紹介が終わった後、デイメスが次の説明にいくと聞いて裕也は驚いた。

デイメス「はい、私達の存在を知ったからには、あなたには説明することがあと二つありますからね。」

裕也「あ、あと二つあるのですか!？」

この後、裕也は現在起こっていることがとてつもない事態だと知る由も無かった。